

少年に夢を 青年に雇用を 障害者に光を 高齢者に安心を
命かがやく社会を願う年金者組合の行進
(略称・かがやけ命の行進)

呼びかけ

軽んじられる命

蹂躪される人間の尊厳

国民いじめの悪政に怒りが渦巻いています。

とりわけ、私たち高齢者に対しては、世代間格差を口実にして「逃げ切り世代」などと悪罵し、年金引き下げ、医療の改悪、消費税の引き上げまで呑みこめと迫ってきています。

戦前戦後、苦難の時代を生き抜いてきた高齢者が、もうそんなに長くない「退場」を目前にして、人間としての尊厳を踏みにじられようとしている”今日”のあり姿を前に、このままでは死ねないという強い思いにかられます。

踏みにじられているのは高齢者だけではありません。「先進国」といわれる国の中で、世界ワースト2、16%を超えた貧困率、208万人を突破した生活保護、戦後最悪と言われる新卒者・若者の雇用、207万世帯といわれるワーキングプアー、児童虐待、13年連続で3万人を超えた自殺者、600万人を優に超えていると推計される「買いもの難民」等々、99%の国民が国の悪政に苦しめられています。

私たちは、憲法が定める「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活をいとなむ権利を有する」とする、国民としての生きる権利を声を大にして主張します。そして、「国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」という、国の責務をまっとうするように求めます。

全日本年金者組合近畿ブロックは、開会中の国会に向けて、私たちの願いをとどけるために、「命かがやく社会を願う年金者組合の行進」、略称「かがやけ命の行進」にとりくむことを決定しました。年金者組合中央本部は、このとりくみを年金者組合の全国課題と位置づけ、年金者組合総体として成功させようとしてとりくみを強めています。

このとりくみは、「税と社会保障一体改革」と称して、消費税増税、年金、医療・介護、福祉切り下げなどと国民に堪えがたい苦難を強いる政治に対する年金者組合の抗議行動です。

特に、『一体改革』といって社会保障の変質・解体をはかる野田内閣の暴走に対する反対の行動であります。今声を挙げないで、いつ上げるのかの思いの発露でもあります。

そして、人間らしく生きたいというささやかな願いをも、ぐちゃぐちゃにしようとする政治を、力を合わせて変えましょうという、年金者組合としてのメッセージです。

組織の存在をかけて阻止することを決定した第6回執行委員会の方針の具体化です。

- 大阪から東京への行進の沿道の仲間には、具体的行動参加を。
- 首都圏からは支援参加を。
- 全国の仲間には支援カンパでの協力を。

2012年 5月 9日
全日本年金者組合